

コミュニケーション演習2

【単位数:1単位, 授業14コマ】

1 科目責任者

早稲田勝久 教授(医学教育センター)

2 教育目標

(1) ねらい(I-1-c, I-2-c, I-5-c, I-6-c, II-1-c, II-2-c, II-3-c)

- ① コンピテンスの「プロフェッショナリズム」「コミュニケーション」を修得するために、グループ学習や能動的学習を通して、医師としての価値観、チーム医療の基本、コミュニケーションの基本的なスキルを身につける。
- ② 模擬患者との演習を通して、自身のコミュニケーションの傾向や課題を明確にする。
- ③ 安全な医療を提供するために必要なコミュニケーションについて考察する。

(2) 学修目標

- ① 模擬患者から、話を聴く演習を通じて、傾聴、会話のポイント、相手から情報を引き出す方法等を実践できる。
- ② 医師として患者・家族とコミュニケーションを図るために必要な要素を説明できる。
- ③ コミュニケーションに必要な基本的な技法について実践できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
レポート	○	40%	インタビューガイドの提出:5点x3回 事後課題:25点
態度・技能	○	60%	身だしなみ、面接技法について、模擬患者(10点x2日)・教員(20点x2日)による他者評価。
態度	○	-	演習に対する参加度を評価する(居眠り、ゲームや内職は減点の対象とする)。減点は最大20点とする。

出席: 演習を修得するためには、欠席をしてはならない。4日間の演習の内、2日間は「チーム医療実習」を行う。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

不合格などで再評価が必要な場合は、教員と面談の上、補習又は課題・レポートを課す。
欠席した場合は、教員と面談の上、補習又は追加レポートを課す。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

模擬患者とグループメンバーからのコメントなどを総合してフィードバックを行う(紙面でフィードバック)。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
チームが機能するとはどういうことか	エイミー・C・エドモンド(野津智子訳)	英治出版	チームコミュニケーションについて理解しやすい書籍である。
診療場面のコミュニケーション	ジョン・ヘリテッジ, ダグラス・メイナード(川島理恵他訳)	勁草書房	会話分析という研究分野からみた医療面接について述べられており, 問い方とその答えについて具体例が多いため, 「目的をもった会話」の重要性を考えるきっかけになる。

6 準備学習(予習・復習)

日常のコミュニケーションについて, 演習前後に振り返る機会を持つこと(1日あたり約0.5時間)。
1学年次早期体験実習1aで学習したコミュニケーションについて振り返ること(1日あたり1時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

演習を中心に双方向の講義を行う。

(2) 講義の内容

コミュニケーションの基本と医療人として求められるコミュニケーションの特徴について学習する。
模擬患者に対する「ライフストーリー」聴取, 及び症状のある患者への問診を体験する。